

東京 IPO 特別コラム

2020年9月18日 Vol.165

再上場銘柄の不人気で始まった9月のIPO

安倍首相の辞任で新たに誕生した菅首相への期待が高まる中で株式相場は引き続きじり高歩調を辿っている。海外株高基調も米NASDAQを中心に継続していることが背景でもあるがコロナ禍対応の金融緩和推進も味方していると推察される。このところ堅調なのはマザーズ指数で新興銘柄への関心が高まっていることを裏付ける。

こうした中で9月のIPOが17日の雪国まいたけ（1375・東証1部）から始まった。同社の公開価格は2200円と上限価格2400円を下回って決まったこともあり、公開前から不人気の印象があったが初値も公開価格を100円下回り2100円となった。更に終値も2090円となり2日目も短期投資家の売りが続いている。ご承知の通りマイタケをはじめとしたキノコ類を工業生産する雪国まいたけは以前も上場していた企業で皆さんもよくご存知かと思う。筆者の記憶では業績が悪化する中でファンドが株式を買い取り、その後ビジネスを再構築。ブラッシュアップしての東証1部への直接上場となった訳である。折しも巣ごもり需要でキノコ類の消費は堅調なようだから上場時の動向に期待はあったのだろうが、やや期待外れの動きとなった。

冷静に考えると今後は食糧問題がクローズアップされる筈で同社のような工業化された農業企業は世界的な存在価値を持つと考えられる。市場人気の高いAI企業やDX企業とは対極に位置する同社のような企業の不人気は過去のイメージもあって致し方ないが、決算の内容は既に公表されており、今3月期の売上高527億円、営業利益83億円というかつて低収益に甘んじていた頃とは比べようがないほど向上している。問題はこの業績見通しの信憑性と来期以降の成長度であるが、それは今後の同社のIR活動によって明確になってくる筈だ。

いきなりの公開価格割れでスタートした9月IPOだが、この後は24日にトヨクモ（4058・M）、まぐまぐ（4059・JQ）、グラフィコ（4930・JQ）の3銘柄が登場する。また25日はSTIフードホールディングス（2932・東証2部）、I-ne（4933・M）、28日のrakumo（4060・M）から29日ヘッドウォータース（4011・M）、30日アクシス（4012・M）とマザーズ銘柄が続く。厳密に言うと再上場銘柄はIPO銘柄とは言えないが、事業内容をブラッシュアップして今後の成長にも自信を持ってのIPOであれば、いずれは見直されるだろう。流動性が高く、買う理由さえ明確に見いだせれば機関投資家の投資対象ともなるからだ。

24日からのIPOもマザーズ銘柄を中心に好需給の下で人気化が予想される。地下鉄のチラシ広告などで企業認知度を高めている安否確認システムなどを手掛けるトヨクモやかねてから上場意欲のあったメールマガジン配信サービスのまぐまぐが実質的には9月IPOのスタートと言える。新政権への期待と一方では解散総選挙に向かうであろう局面の中で今後のIPO市場にも目が離せない。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）